

平成 29 年度決算審査意見書（概要版）

1 決算審査意見書

決算審査意見書は、市長の依頼に基づき監査委員が各会計の決算等について審査を行い、その結果に意見を付けてまとめたもので、平成 30 年 8 月 28 日付けで市長に提出しています。

各会計の決算等に関し、歳入歳出の状況や各種の財政指標などを記載しています。

2 決算審査の結果

(1) 一般会計・特別会計歳入歳出決算

決算書などの関係書類が関係法令に従って作成され、表示された計数が正確であるか等について検証を行いました。その結果、関係書類は関係法令に従って作成され、これらに表示された計数は正確であり、また、各会計の予算執行や事務処理はおおむね適正かつ効率的であると認めています。

(2) 公営企業会計決算

決算書などの関係書類が関係法令に従って作成され、事業の経営成績や財政状態を適正に表示しているか等について検証を行いました。その結果、関係書類は関係法令に従って作成され、事業の経営状態や財政状況を適正に表示し、表示された計数も正確であると認めています。また、各事業会計の予算執行や事務処理についても、おおむね適正かつ効率的であると認めています。

(決算の状況)

(単位:千円)

区 分		歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額	翌年度繰越財源 ※1	実質収支 ※2	単年度収支 ※3
一般会計		78,887,567	77,216,570	1,670,996	119,208	1,551,789	351,465
特 別 会 計	国民健康保険事業会計	19,984,437	19,462,174	522,263	0	522,263	75,611
	霊園事業会計	84,615	84,615	0	0	0	0
	介護保険事業会計	13,097,647	12,884,066	213,580	0	213,580	24,781
	後期高齢者医療会計	1,994,817	1,930,196	64,620	0	64,620	1,670

※1「翌年度繰越財源」とは、年度中に生じた事由により翌年度に繰り越すことになった事業費に充てるための財源をいいます。

※2「実質収支」とは、歳入歳出差引額から翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた額をいいます。

※3「単年度収支」とは、当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた額をいいます。

(単位:千円)

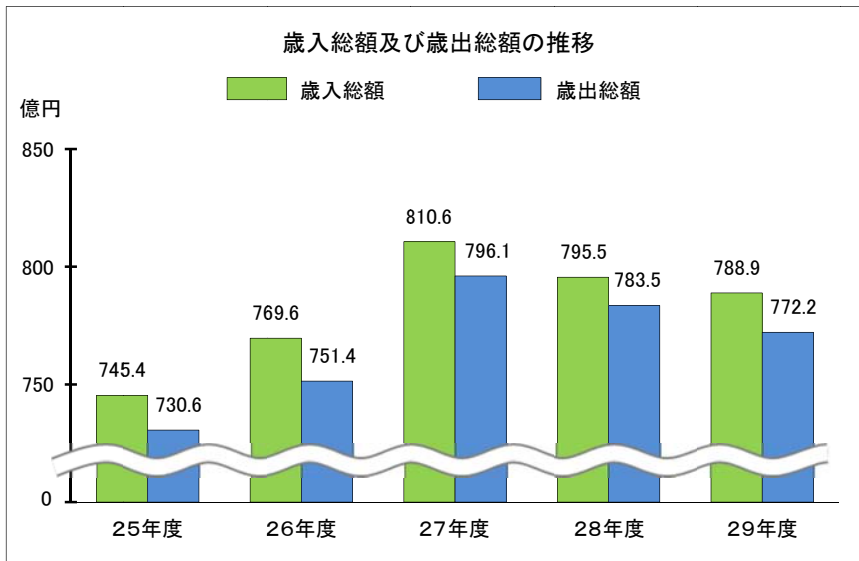
区 分	収益的収支			利益剰余金又は累積欠損金	累積資金収支 ※4
	収入	支出	差 引		
水道事業会計	3,144,235	2,715,849	428,386	588,058	1,674,305
下水道事業会計	5,374,784	4,728,398	646,386	1,186,312	1,122,476
市立病院事業会計	10,550,114	10,743,923	△193,809	△8,082,547	△855,400
公設地方卸売市場事業会計	154,240	132,988	21,252	48,736	538,162

※4「累積資金収支」とは、流動負債から算入除外額を減じ、それを流動資産から差し引いた額をいいます。

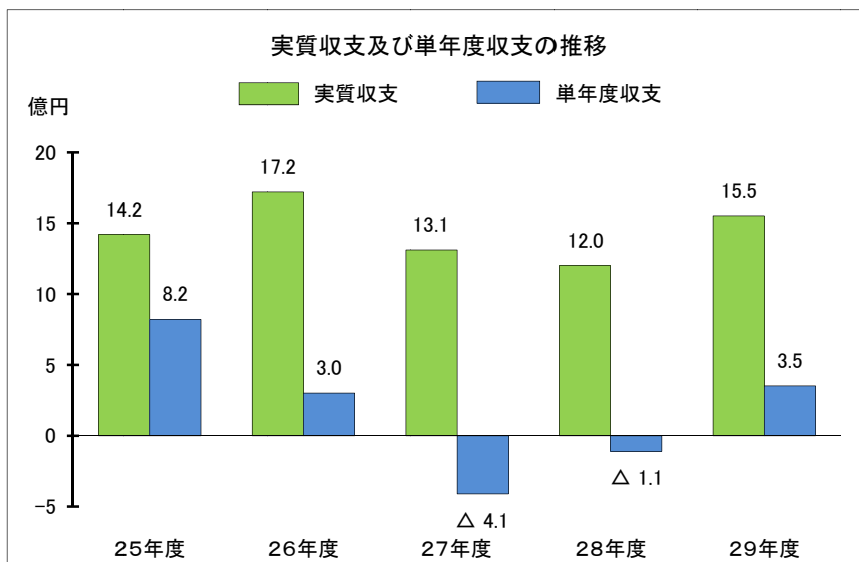
3 苦小牧市の財政状況

(1) 一般会計の収支状況

一般会計の収支状況は、次のとおりです。



29年度の一般会計歳入総額は788億8,756万円で、前年度と比較すると6億6,508万円(0.8%)減少しています。これは市債や国庫支出金の減などによるものです。歳出総額は772億1,657万円で、前年度と比較すると11億3,117万円(1.4%)減少しています。これは、豊川コミュニティセンター大規模改修事業費や臨時福祉給付金支給事業費、旧道立病院改修等事業費の減などによるものです。



29年度の一般会計実質収支は15億5,178万円の黒字となり、単年度収支でも3億5,146万円の黒字となっています。

(2) 財政状況

ア 財政力指数

財政力指数は、地方公共団体の財政の強弱を示す指標で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3年間の平均値のことをいい、その数値が高いほど普通交付税算定上の留保財源が大きいことになり、財源に余裕があるといえます。

29年度の財政力指数は0.77となっています。

区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
苫小牧市	0.74	0.75	0.76	0.77	0.77
札幌市	0.69	0.70	0.72	0.73	
函館市	0.45	0.45	0.46	0.46	
小樽市	0.42	0.42	0.42	0.43	
旭川市	0.48	0.48	0.49	0.51	
釧路市	0.43	0.43	0.44	0.45	
帯広市	0.54	0.55	0.56	0.57	
北見市	0.45	0.45	0.45	0.45	
江別市	0.50	0.50	0.52	0.53	
9市平均	0.52	0.53	0.54	0.54	

出 典

総務省ホームページ「地方公共団体の
主要財政指標一覧」より

イ 経常収支比率

経常収支比率は、地方公共団体の財政構造の弾力性を判断するための指標で、経常経費に充当された一般財源が経常的に収入される一般財源等に占める割合をいいます。

29年度の経常収支比率は88.0%で、前年度と比較すると0.5ポイント低下しています。

(単位:%)

区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
苫小牧市	86.4	86.9	86.5	88.5	88.0
札幌市	92.3	94.0	91.6	94.7	
函館市	86.1	86.5	87.2	88.9	
小樽市	97.2	98.0	93.3	99.3	
旭川市	88.8	91.4	92.3	93.6	
釧路市	94.3	96.3	92.1	97.4	
帯広市	88.0	90.6	89.7	92.0	
北見市	90.2	90.4	90.2	91.5	
江別市	93.8	92.8	89.8	94.0	
9市平均	90.8	91.9	90.3	93.3	

出 典

総務省ホームページ「地方公共団体の
主要財政指標一覧」より

ウ 積立基金現在高 ※5

29年度の積立基金現在高は94億4,576万円で、前年度と比較すると9億5,611万円(11.3%)増加しています。これは、財政調整基金、減債基金及び旧道立病院改修等事業基金の増などによるものです。

(単位:千円)

項 目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
積立基金現在高	5,255,421	5,962,221	8,428,655	8,489,649	9,445,760
対前年度増減率	42.8%	13.4%	41.4%	0.7%	11.3%

※5 「積立基金」とは、一般に財政運営を計画的に進めるため又は財政に余裕がある場合に、特定の支出目的や年度間の財源変動に備えて積み立てた資金のことをいいます。

エ 地方債現在高 ※6

29年度の地方債現在高は825億7,926万円で、前年度と比較すると7億963万円(0.9%)増加しています。これは、臨時財政対策債で11億4,047万円の増などによるものです。

(単位:千円)

項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
地方債現在高 (うち臨時財政対策債残高)	73,225,496 (25,120,132)	73,562,991 (27,714,013)	79,351,544 (29,623,619)	81,869,633 (30,842,764)	82,579,269 (31,983,240)
対前年度増減率	0.3%	0.5%	7.9%	3.2%	0.9%

※6 「地方債」とは、地方公共団体が資金を調達するために後年度にわたり財政負担を伴う債務であって、その返済が一会計年度を越えて行われるものをいいます。

4 審査意見

監査委員は、各会計の決算ごとに審査意見を述べています。一般会計に関する意見は、次のとおりです。

財政基盤安定化計画において管理されている3指標を前年度の数値と比較すると、経常収支比率、将来負担比率はともに低下し、実質公債費比率は上昇した。経常収支比率は目標管理ゾーンに、他の2指標は安心ゾーンにある。これらの指標に加え、基金の状況からは、本市の財政の健全性は確保されているものと考えられる。

しかし、人口減少による市税収入の減少と少子高齢化の進展による社会保障給付費の増加が見込まれており、こうした厳しい財政状況の中で、公共施設の老朽化対策等の取組が求められている。

財政基盤安定化計画に基づく的確なコントロールの下で、国・道支出金等の積極的な導入、基金や地方債の有効活用、財源の適切な配分等に努め、本市の諸課題に対応可能な財政基盤の強化を望むところである。

一般会計・特別会計歳入歳出決算、公営企業会計決算及び基金運用状況の審査の詳細は、決算審査意見書を御覧ください。